

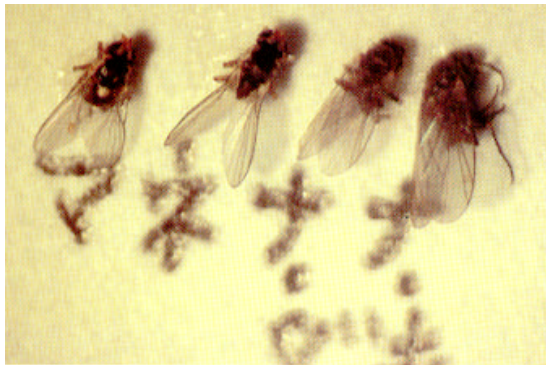
## <ガーベラ・マメハモグリバエ>



ガーベラ葉の被害（甚）



施設内全体に広がった被害の状況



近縁のハモグリバエ類

マ=マメハモグリバエ   ネ=ネギハモグリバエ  
ナ=ダイコン（ダ）およびキヌサヤエンドウ（キ）  
より羽化のナモグリバエ

## <ガーベラ・マメハモグリバエ>

学名：*Liriomyza trifolii* Burgess   英名：Legume leafminer

### 1. 症 状

伊豆大島のガーベラで発生した。欧米で重要害虫になっている、薬剤抵抗性系統と同一と考えられる。一般に「えかき虫」と呼ばれ、幼虫は葉肉を食害するほか、成虫が産卵管で葉面に小さな穴を開け、にじみ出る汁液を摂食する。このため、無数の小斑により葉色が褪せることがある。株全体に被害が広がると切花の本数が減少する。

### 2. 生 態

本種は、特にキク科、セリ科、マメ科を好むほか、アブラナ科、ウリ科にも寄生する。1世代は環境条件により異なるが、15℃では約64日、20-25℃では30-19日。施設内では年間を通して発生する。

### 3. 防 除

- 1) 本種は各薬剤に対し感受性が低下しているため、薬剤防除に加え、物理的、耕種的防除法を組み合わせて行う。
- 2) 成虫の侵入を防止するため、施設入口に寒冷紗を設置する。
- 3) 成虫は黄色に強く誘引されるので、黄色粘着リボンを吊るし、早期発見と防除に努める。
- 4) 防除薬剤は、平成4年版東京都病虫害防除基準を参照のこと。

### 4. 記 事

近県では千葉、栃木、神奈川県でそれぞれ、ガーベラ、キクおよびミニトマトで発生している。